

中学校 技術・家庭科【家庭分野】



1 学習評価で大切にしたいこと

(1) 3学年間を見通した題材計画

家庭分野では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織した題材を構成し、分野の目標の実現を目指しています。そのため、3学年間を見通した題材の計画的な配列が必要です。履修学年を踏まえた題材計画や目標、評価規準を設定しましょう。

(2) 実践的・体験的活動と評価

生活の自立に必要な基礎的な知識及び技能は、実践的・体験的な活動を通して子供が習得します。子供の発達の段階や学習のねらいを考慮して製作、調理等の実習や、観察、実験等、適切な学習活動を設定して評価を行いましょう。

2 評価の観点と趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す家庭分野の評価の観点と趣旨を参考にして、評価の基本的な枠組みを捉えます。

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

なお、家庭分野では「評価の観点及び趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及び指導事項に関する部分を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：C 消費生活・環境

項目：(2) 消費者の権利と責任

※技術・家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記の♠～◆の内容を全て含め、家庭分野の目標(3)や学習内容に応じて設定します。

- 例
- ♠ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面）
 - ♥ 自らの学習の調整（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面）
 - ◆ 実践しようとする態度

ポイント

題材の評価規準の作成時には、下線の部分に学習指導要領に示す項目（内容のまとめり）を設定します。

第3学年 内容C(2) 消費者と権利と責任

題材の評価規準例	よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり(♠)、振り返って改善したりして(♥)、生活を工夫し創造し、実践しようとしている(◆)。
----------	--

4 評価の留意点

知識・技能

主に家庭生活に関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けているかどうかを、確認テストや実践記録表、実習を通じた行動観察等から評価します。

思考・判断・表現

習得した知識及び技能を活用し、家族・家庭や地域における生活の課題を主体的に捉え、具体的な実践活動を通して課題を解決する力が養われたかを問題解決的な学習の中で評価します。一連の学習過程の場面を捉え、自分の考えの根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明できるか等を記述内容や発言等から判断します。

主体的に学習に取り組む態度

よりよい生活の実現に向けて、知識及び技能を活用しているか、考え工夫しているか、自ら進んで実践しようとしているかを評価します。題材のまとめりの中で事前に評価時期を定め、ポートフォリオや実践記録表等の記述や行動観察等から評価します。